

第24回 スクリーンコンサート 2023. 6月

今月のテーマ チェロ

深く渋みのある低音が持ち味のチェロですが、曲によってはヴァイオリンよりも高い音で演奏することがあるほどその音域は広く、4～5オクターブの音を出すことができます。

そのため、チェロだけで合奏する『チェロアンサンブル』はまさにヴァイオリンやヴィオラなどが入った弦楽合奏と聴き間違えるほど多彩なものになります。

音域の広さだけでなく、『人間の声に一番近い楽器』と言われ、歌を歌っているような心地よさを感じられます。さらに優雅で重厚な音色もチェロの魅力です。大きさは120cm、重さは3.5kg。



解説&曲目

1、パブロ・カザルス (30:00)

チェロの近代的奏法を確立した20世紀の巨匠カザルスは、演奏の姿勢から技法までを改革し、自然な演奏を可能にした。また、スペインのカタルーニャ地方出身であり、フランコ独裁政権への抗議や反ファシズムの姿勢を取り続けた平和活動家としても知られる。

(1)94歳の時には国連で弾いた「鳥の歌」(カタルーニャ民謡)はあまりにも有名です。(1:40)

(2)鳥の歌 カタルーニャ民謡 (3:00)

2、宮沢賢治 (21:30)

「セロひきのゴーシュ」は、宮沢賢治童話の代表作の一つであり、熱烈な音楽好きで知られた賢治の特色が特に発揮された作品です。

「双子の星」や「銀河鉄道の夜」で知られる「星めぐりの歌」は賢治が作曲したものです。賢治自身はチェロを弾いたそうです。

星めぐりの歌 (3:10)

3、無伴奏チェロ組曲 第1番から前奏曲 バッハ (2:25)

チェロの旧約聖書とも言われるこの無伴奏チェロ組曲です。

この作品に再びスポットライトを当てたのはチェロの巨匠、パブロ・カザルスでした。

その価値を再発見し広く世に紹介したことで有名です。

第1番から第6番までの全6曲からなり、6つの組曲はそれぞれ前奏曲から始まる。

4、白鳥 サンサーンス 3:00

組曲動物の謝肉祭の全14曲中最も有名な曲で、13番目に登場します。

オーケストラで演奏もありますが、チェロとピアノで演奏されることが多く、チェロの優雅で美しい響きが聞く人の心を癒します。

5、エレジー（悲歌）Elegie フォーレ （6:30）

エレジー（elegy, eleg í e）」は日本語では「悲歌（ひか）」、「哀歌（あいか）」などと訳されていて、そのタイトルの通り深い悲しみに満ち溢れるような作品です。

この曲を作曲した3年前、当時32歳のフォーレは婚約者のマリアンヌ・ヴィアルドから婚約を破棄されていたと言う。そのことが作曲のきっかけは分からないが、曲想に投影されていたとしても不思議なことではないのかも。

6、ヴォカリーズ・ラフマニノフ （2：40）

ヴォカリーズとは母音だけで歌う歌唱法ですが、人間の声が一番近いといわれるチェロで聴いてみましょう。

7、チェロ協奏曲第1番第1楽章 ハイドン （10:00）

三大チェロ協奏曲といわれるその一つです。バロック音楽の痕跡を残しています。

ハイドンは生涯にチェロ協奏曲を2曲作曲。ハイドンの人生は、ハンガリーの大貴族エステルハージ家に使えていた。そのときの同僚に書いてあげたのが1番です。

8、序奏とロンドカプリチオーソ サンサーンス （10:00）

サンサーンスの最も人気のある作品の一つ。

名ヴァイオリニストのパブロ・デ・サラサーテのために書かれた作品で、ヴァイオリンの名曲でもあります。

チェロアンサンブルが、弦楽器のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスと音の高い楽器から低い楽器までの音色を響かせる。